第13回 東西対抗戦 競技ルール説明

【競技方法】

ハンディ式ホールマッチ形式　18ホールのアップ数で競う（各チームのアップ数の合計）
前半のハーフはフォーボール、後半はModifyフォーサム

【競技ルール説明】

前半のハーフは４人ともそれぞれのボールでプレーするフォーボール（ベストボール）で各チームプレイヤーのハンディキャップ（HC）を75%考慮した相対ハンディでのマッチプレー。
後半のハーフはModifyファーサムとし、同じくHCを75%考慮したマッチプレー。
ニヤピンのみ個人賞があります。OUT、IN各４ホール。
アップしたホール数による勝敗、ただし途中でのアップ数は最大3ホールとし、4ホール目以降アップしても計算しない。ダウンした場合には２アップとなる。

＜ハンディキャップ(HC)の決め方＞

※スタート表にハンディキャップは決めて記載してあります。

各プレーヤーの申告するHCの差に75%をかけたものの1/2(9Hのため)としHCストロークストロークインデックスの1から順次適用する。

フォーボールの場合（前半９ホールのハーフで適用）

例1）東のA氏(HC 6), B氏(HC16)　VS　西の C氏(HC9), D氏(HC11)

□ HCの基準は一番低いHCである東のA氏(HC6)として計算します。
□ 東のB氏(HC16)はA氏との差(16-6=10) x 75% x1/2 = 3.75→**HC4**
□ 西のC氏(HC9)は同様に(9-6=3) x 75% x1/2 = 1.125　→**HC1**
□ 西のD氏(HC11)は同様に(11-6=5) x75% x 1/2 = 1.875　→**HC2**
このショット数のHCはゴルフ場が定めるストロークインデックス（カードに記載あり）の順番で適用されます。四捨五入とします。

仮定）　勝敗：ストロークインデックスが2のホールで、各チームが以下のスコアの時
□ 東のA氏：グロススコア**4**
□ 東のB氏：グロススコア**6** →ネットスコアはハンディあるので**5**
□ 西のC氏：グロススコア**5** →ネットスコア　変わらず**5**
□ 西のD氏：グロススコア**5** →ネットスコアはハンディあるので**4**
この場合東ベストスコアは4（A氏）、西ベストスコアは4（D氏）でこのホールは**引き分けとなります**。

後半のModifyフォーサムでもこの計算でHC（75%ショットの1/2 x1/2）を決めてのホールマッチとなります。

Modifyフォーサムの場合（後半9ホールのハーフで適用）

各ホール全てのプレーヤーがティーショットを打ちます。
パー3ホールは条件のいい方をひとつ選びセカンドショットからは交互にホールアウトするまで打っていく。
パー4、パー5については全てのプレーヤーがティーショットを打ち、セカンドショットはパートナーの球を打ちます。セカンドショット
終了時点でサードショットからは条件のいい方を選び交互に打ってホールアウトします。

ハンディは東側と西側の**平均HCの差**x 75% x1/2 (9Hのため) としてインデックスの難しいホールにHCがつくものとする。

例2) 東のA氏(HC 4), B氏(HC10) VS 西の C氏(HC2), D氏(HC4)

□東　HC4 + 10 = 14 / 2 = **7**

□西　HC2 + 4 = 6 / 2 = **3**　**7** - **3** = 4 x 0.75 / 2 ＝1.5　 四捨五入で**2**

この場合東側は西側からIndex 2までのホールに対してハンディが1枚ずつあることになる。

【ハンディ早見表】

HC差	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
9Hハンディ数	0	1	1	2	2	2	3	3	3	4

【その他】

□ **勝利チームは参加費が安くなります**

□ **雨天等で、途中でプレーが中止になった場合、最後にプレーを終了したホール時点のポイントを採用し競技を成立させる事とする**

— 以上 —